

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4098400015		
法人名	有限会社M & Y		
事業所名	グループホーム銀杏の木	ユニット名	かえでの棟
所在地	福岡県八女郡広川町大字長延630番地2		
自己評価作成日	平成24年2月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

散歩時のコースのゴミ拾い実施 毎日のリハビリ体操、タオル体操、歌体操、嚙下体操の実施
---

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成24年3月3日	評価結果確定日	平成24年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム銀杏の木は、木造平屋建てに、2ユニットを有する事業所である。隣には、同一法人が運営する有料老人ホームがある。室内は日当たりも良く明るい。2つのユニットを結びウッドデッキや吹き抜け等、暮らしにアクセントをもたらす仕掛けも施されており、全体的にゆったりと落ち着いた雰囲気である。職員は、空間を十分に活かしながら、ユニットごとに、入居者一人ひとりの思いにそった支援に、日々努めている。その姿勢は、入居者の表情や立ち居ふるまい、服装にも如実に表れており、そこに、当事業所職員が、日頃から大切にしているものを垣間見ることが出来る。毎月家族のもとに届けられる「暮らしの様子」は、入居者一人ひとりの暮らしが、1日も漏らさず、箇条書きにしたもので、そこから、家族への配慮と、細やかな情報発信に努めていることがうかがわれる。併せて、地域とのつながりも大切にしており、入居者と共に、ゴミ拾いを兼ねた散歩や、公民館で毎月開催される「いきいきサロン」に参加し、地域住民と親睦を深めている。また認知症サポーター養成講座の講師を務める等、地域福祉の充実にも寄与しながら、開かれた事業所作りに努めている。他にも、毎月開催される八女地区のグループホーム部会に参加し、情報交換を行いながら、現場の職員一人ひとりがスキルアップに努めている。このように、当事業所は、日々、入居者一人ひとりの思いと真摯に向き合いながら、地域の中で、誠実に役割を担い、確かな存在感を確立している。
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時と全体会議にて唱和を行い、理念の意味についても職場内研修にて理解を深め共有を行っている。	開設当初、職員間で話し合いを重ね、地域密着型サービスの意義を踏まえた独自の理念を作り上げている。年に1回、内部研修で「理念とは…」という内容で振り返りを行い、職員間での意識付け、及び共有を図っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時のゴミ拾いはオープン時より継続実践している。地域のサークルには毎回少人数ではあるが参加させていただき、お祭り、文化祭、運動会等の見学も行っている。	町内会に加入。祭りや運動会等の地域行事に参加するとともに、秋祭等の事業所主催の行事に地域住民を招いている。また月1回、公民館で開催される「いきいきサロン」に参加し、地域住民と交流を図っている。他にも、公民館で開催される認知症サポーター養成講座では、講師を務める等、地域貢献に努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトのスタッフにより、地域の公民館にて認知症サポーター養成講座を9月に開催している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて状況報告を行い、意見、アドバイスをもらい質問相談に応じている。取り込めるものはサービス向上に活かす様にしている。	区長、民生委員、地域住民、役場職員、家族代表等の参加で、2ヶ月に1回実施している。運営状況や行事の紹介等を資料をもとに行い、質疑応答や意見交換を行いながら、運営に反映出来るよう努めている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場の担当者が運営推進会議の委員でもあり、協力関係は更に強化されてきた。	福祉課の担当者が、キャラバンメイトの一員でもあることから、平素から相談や情報交換等、顔の見える良好な協力関係が築かれている。また、ケースワーカーの定期的な訪問があり、情報交換等、連携が図られている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、研修等で理解認識しケアの実践に取り組んでいる。	職員は、研修等を通して、身体拘束の対象となる行為の周知に努め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。安全面への配慮から、止むを得ない場合は、家族と相談の上、柔軟に対応している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内、外部の研修に参加し、理解を深め虐待防止に努めている。		

福岡県 グループホーム 銀杏の木

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部から専門講師を招き研修会を開催し、制度について学び理解を深めている。	以前、制度利用者はいたため、職員は制度の必要性について理解している。社会保険労務士を招き、研修会を実施し、更なる理解に努めている。	以前、制度利用者がおり、職員間でも周知が図られていることを踏まえ、今後も、制度の必要性が想定される為、パンフレットや資料等を準備し、制度への「橋渡し役」を担うことを期待したい。
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明を十分に言い、理解納得をしてもらっている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の活用は殆どされていないが、家族からの意見、要望については会議等でスタッフ全員が周知し運営推進会議委員へも報告している。	年に1回、懇談会を実施していたが、参加者も少なく、意見も出なかった為、敬老会・秋祭のイベントと併せて行うことで、楽しみながら、親睦を深め、忌憚のない意見交換を行いながら、運営に反映するよう努めている。また年に4回、写真入りの便りを発行するとともに、毎月請求時には、「暮らしの様子」と称して、毎日の様子を記し、家族へ送付する等、きめの細かい情報発信を行っている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議にて意見交換提案の場を設けている。個人面接時も同様に意見、提案を聞いている。	月1回、全職員参加の会議があり、意見交換・提案の場としている。また年に1回、全職員対象の個人面談がなされ、自己評価と査定がなされるとともに、意見や要望、提案の収集の機会としている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回全職員に自己評価を行ってもらい、目標や成果、意見、要望等を書いてもらうことにより、職場環境の整備に取り組んでいる。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたっては性別、年齢経験等関係なくやる気を重視している。また、事業所で働く職員についても自由に自己実現が出来るよう配慮している。	職員の採用にあたっては、性別や年齢等を理由に採用対象から排除することはない。実際に30代～60代の幅広い年齢層の職員が働いており、定着率も高い。休憩時間の確保や、職員の資格取得に便宜を図る等、働き易い職場環境に努めている。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育、啓発活動については外部からの講師による研修により、各職員の意識を高め日々のケアにも浸透していく様取り組んでいる。	社会保険労務士を招いての研修を行い、改めて、人権について学ぶ機会を設けるとともに、日常業務を通して、言葉遣いや接遇等の面から、人権教育、啓発を行い、職員間で周知徹底出来るよう努めている。	

福岡県 グループホーム 銀杏の木

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については、積極的に参加するようにしている。研修参加者より全体会議において発表してもらっている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八女地区のグループホーム研修会には、必ず参加するようにして交流の機会を増やし、情報交換等でサービスの向上が図れる様取り組んでいる。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回の面接にて、不安、要望等を聞き、施設見学をして頂き、納得した上で意志を確認し、サービス導入につなげている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安、要望等に耳を傾け十分な説明を行って、納得して頂きサービス導入につなげている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自施設で対応できないケースでも相談に応じ、他サービスの紹介を行っている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の個々の能力に応じ、可能な限り役割りを持ってもらいともに支え合い協同生活が送れる様支援している。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族で出来る事は出来るだけ協力してもらい、絆を大切にしながら共に本人を支えていくようにしている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出、外泊はいつでも自由に出来るようにしている。	家族の協力を仰ぎながら、自宅への一時帰省・外泊や、近所の友人・知人宅を訪問したり、行きつけだった美容院を利用したりと、馴染みの関係が途切れないように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が支えあえる環境作りを行い、トラブルになりそうな時は未然に防ぐ様に努めている。和やかな状況が保てる様に努めている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて本人、家族からの相談や支援など行っている。又、亡くなられた方への初盆のお参りを本年度も実施している。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを大切に、本人の希望や意向を把握し本人主体の生活が出来るように努めている。	アセスメントツールは、センター方式を採用。一人ひとりの生活歴や、好み、要望、楽しみの把握に努め、思いや意向を汲み取るうとしていることがうかがえる。また平素から、入居者の言葉や、しぐさ等から、潜在化する思いを察するように努めるとともに、家族等からの情報をもとに、本人本位の検討を行っている。	自らも課題に挙げているように、現状、センター方式の活用に苦慮しているように思われる。家族に協力を仰いだり、事業所用に編集したりしながら、より本人本位のニーズが引き出せるよう期待したい。
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族との会話で暮らし方や生活環境の把握に努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケア記録や本人との会話、表情や変化等を見て現状の把握に努めている。又、毎朝朝礼を行い状態の申し送りを行っている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎にカンファレンスを行い意見やアイデアを出し合い、個別支援を行っている。状態、状況の変化が生じた場合はその都度、新たな計画を作成している。	3ヶ月毎のカンファレンスでは、医師、看護師、家族からの情報をもとに職員間で話し合い、一人ひとりの現状に応じた見直しにつなげている。日々の介護記録は、介護計画と連動しながら、各自の状態が詳しく記載されており、見直しには効果的である。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	誰が見てもわかり易いような記録になる様に、会議等で意見等が出た場合は皆で話し合い改善を行っている。		

福岡県 グループホーム 銀杏の木

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対しては、可能な限り対応を行っている。外部からのマッサージ、病院へのリハビリ等一部の人はあるが実施している。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事等は、参加出来る人には極力参加してもらうように努めている。月に1回近所の公民館で行われている、いきいきサロンへの参加を実施している。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に応じ定期的にかかりつけ医の受診を行っている。又、定期的に訪問診療を受けている。	本人・家族の希望に応じ、一人ひとりのかかりつけ医を尊重している。定期受診についても、基本的には家族対応であるが、困難な場合は、職員が行う等、柔軟に対応している。また協力医の往診も2週間に1回あり、適切な医療を受けられる体制が整っている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の変化等はすぐに看護師に報告し、指示を仰ぎ適切な受診や看護を受けられるように努めている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との情報交換を行い、利用者が安心して治療出切る様に支援を行っている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応、終末期ケアの指針の説明を行っている。看取り介護についての同意を得ている。	独自の指針をもとに、契約時に説明を行い、同意書も交わしている。事業所として、医師と連携を図りながら、最大限の努力をする意向をもっているが、現在までのところ看取りを行ったことはない。今後の課題として、職員間で話し合いを重ねながら、更なる体制作りを行う意向がうかがえる。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の方法は掲示板にて掲示しており、緊急時のマニュアルは全職員がわかる場所に常時設置している。研修を受講して実践力を身に付けている。		

福岡県 グループホーム 銀杏の木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。日中と夜間想定にて訓練を実施、運営推進会議の委員、近隣の方への参加も依頼している。	年に2回、昼間、及び夜間想定の実践を行っている。2回とも消防署の立会いがあり、AED講習会も実施している。実施記録についても、写真入りで資料も添付され、内容も、後に検証がし易いように分かり易いものであった。玄関前には、広い駐車場があり、格好の避難場所となっている。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録、個人情報の管理は、保管場所を決めて保管できている。言葉掛けには気をつけて一人ひとりの人格を尊重を念頭において接する様に努めている。	個人情報保護法に基づき、記録物を始めとする個人情報については、適切に管理されている。また普段から、言葉遣い、接遇全般について、留意を払い、一人ひとりの人格を尊重するよう努めている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分で選んだり、決定する機会を作るように努めている。本人の喜びや、したい事等を考えてその機会を作る様に努めている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースを大切に支援を行っている。利用者の希望があれば、出来る限りの支援を行っている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師にホームまで来てもらい、散髪を行っている。身だしなみや化粧等は、基本的に本人の好きなようにしてもらっている。介助が必要な方も、本人の意向を聞いて支援を行っている。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき等、利用者が出来る事は手伝ってもらっている。敬老会や他の行事のときは特別なメニューを提供している。又、餅つきやソーメン流しも年に1回行っている。	栄養士作成の献立をもとに、入居者の嗜好や状態、季節に応じてアレンジを施し、一人ひとりのニーズに応じた食事提供を行っている。入居者も、準備等では、出来る範囲で役割を担っている。職員も同席し、同じものを食しており、会話も弾んでいる。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの摂れるメニューを作成している。利用者に合わせた食事形態で提供し水分量の記録も行っている。		

福岡県 グループホーム 銀杏の木

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けを行い実施している。介助が必要な方は職員が丁寧に行っている。週に一度は、ハブラシ・コップ等消毒を行い清潔にしている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のタイミングを把握し、声掛けや本人の訴え等にて対応し、トイレで排泄が出来る様支援を行なっている。	各自の習慣や排泄パターン、体調を配慮しながら、声掛けにより、トイレ誘導を行っている。一人ひとりの状態に応じた支援を行っている様子は、実際に、計画書にも反映されており、その記述内容からも、本人のニーズを踏まえ、段階的な目標設定を行い、自立に向けた支援を行っている様子が確認出来る。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを毎日行っており、水分摂取の少ない方には声掛けにて水分を多く摂ってもらい、運動、腹部マッサージ、服薬にて対応している。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望される回数や体調を考慮しながら支援している。入浴拒否がある方は、声かけやタイミングを図りながら入浴していただける様支援をしている。	基本的には、1日おきの入浴であるが、希望があれば、毎日の入浴も可能である等、柔軟に対応している。入浴を好まれない方については、声掛けやタイミングを工夫しながら、個々にそった支援に努めている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室にて毎日の習慣や、体調によって休息を取られたり安心して気持ちよく眠れるように支援している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用されている薬の目的、副作用、用法、用量を理解し、服薬の支援と症状の変化等状態把握に努めている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年間を通し、数多くの行事を計画し、気分転換をしていただいている。個別にて一人ひとりの生活歴や力を活かして物作りや楽しみ事を支援している。		



福岡県 グループホーム 銀杏の木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>天候、体調の良いとき、散歩を実施している。季節によって花見見物やドライブを実施している。地域の行事(いきいきサロン/月1回)に希望者と一緒に出かけている。家族との外出を楽しまれる方もおられる。</p>	<p>一人ひとりの希望にそって、その日の体調、天候を配慮しながら、ゴミ拾いを兼ねた散歩に出掛けている。また花見等の季節のドライブに出掛けたり、月に1回は、体操や、だご汁会、レクリエーション等、毎月メニューがかわる「いきいきサロン」に出掛ける等、地域の中で、楽しむ機会も確保している。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>殆どの利用者は職員、家族が行っているが、少ない目のお金は自分で管理されており、自動販売や路地販売の品物を買物される。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族へ電話を掛ける事を希望されたときは職員が対応している。家族から電話がかかってきた場合は、利用者へ取次ぎを行っている。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関、リビング、テラスには観葉植物を置いている。カレンダーは手作りボードには季節感のあるレイアウトを施している。献立表は一週間分と一日分と二種類を掲示している。音と光は、不快にならない様配慮している。臭いが気になる場所には、消臭剤を使用している。室温にも気をつけこまめに調整している。</p>	<p>リビングは、日当たり良く明るい。2つのユニットをつなぐウッドデッキや、吹き抜け、廊下も、十分に動線が確保され、機能的である。室内には、台所からは、調理の様子が五感を通して伝わり、生活感がある。道路に面しているが騒音もなく、不快な臭気等についても一切ない。また各所に観葉植物が配され、暮らしに潤いを与えていることから、居心地の良い空間作りに努めていることがうかがえる。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>気の合った利用者同士が席を共にされ、会話しやすい配置にしている。ソファ、藤の椅子をテレビの前に配置し自由に使用されている。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた者を持ち込んでいただき写真等を飾られている。花が好きな方へは、花を提供したり散歩中に野花等を摘み飾られている。仏壇や遺影を置かれている方もおられ毎朝のお参りには、お茶、ご飯をお供えされている。</p>	<p>各居室には、使い慣れた調度品や、仏壇、自分で作った作品等、各々が大切にしている物が持ち込まれており、本人本位の空間作りをしていることがうかがえる。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室の入り口に表札をつけており、個人の部屋が分かるようにしている。トイレの前は照明を点けわかり易く安全に出入りが出来るようにしている。あらゆる場所に手すりを設置し危険につながる物は置かないよう工夫している。</p>		